

集会アピール

私たちは、第 50 回九州保育団体合同研究集会福岡集会を、9 月 3 日、4 日、11 日の 3 日間でオンライン開催し、九州および、九州を越える他県から 1111 人の仲間が参加し、学び合いました。

本集会のテーマは、「子どもの命が輝く平和な未来のために；紡いできた保育の実践と運動の歩みをこれからも」です。九州合研を生み出した先達の願いを受け、私たちは、幾多の困難な状況の中でも、「子どもの命が輝く平和な未来のために」と、子どもに関わるみんなで知恵と力を出し合い、50 回目の節目となる福岡集会までつなげてきました。

しかし、本集会へ辿り着くまでは苦難の連続でした。2020 年 9 月開催に向け準備を始め、「福岡集会まで半年」となった 2019 年度末からコロナ禍は始まりました。それからの 2 年半、状況が何度も変化し、そのたびに保育現場は新たな対応を迫られました。コロナ禍で会議を実施するにも制限がある中、大変な時だからこそ、同僚、保護者と悩みを共有し、互いに配慮する関わりを大切につなげることが大事だということを実感した 2 年半でした。準備をし始めた時から、社会は大きく変化してきましたが、集会テーマに込められた思いは揺らぐことはありませんでした。

九州合研の集会の要である分科会には各地から 47 本の実践が提案されました。各分科会で、提案を大切にしながら、乳幼児期に大切にしたいことを語り合い、学び合うことの喜びを感じた 2 日間となりました。また、記念講演、福岡の現地実行委員会らしさを強調して企画した 10 講座は 10 月 31 日まで引き続き録画配信されます。

私たちの保育・子育てを取り巻く情勢は相変わらず、困難で、安心できない状況が続いています。2021 年 1 月、将来的な核兵器の全廃に向けた国際条約である「核兵器禁止条約」が発効し、今年 6 月の締約国会議において核なき世界の実現を目指す「ウイーン宣言」が採択されました。しかしながら唯一の戦争被爆国である日本国政府は未だ批准していません。核戦争に怯える子どもがいなくなる世界までは道半ばといったところです。また、福岡集会まであと半年、という時期にロシア軍がウクライナへ武力侵攻しました。ウクライナで起こっていることは、私たちにとって他人ごとではありません。日本では戦争こそ起きていませんが、貧困、虐待、そして子どもに関わった悲惨な事件・事故が頻発しています。大人同士の問題が最も弱い立場にある子どもに犠牲を強いているという構図は変わりません。多様性を認め合い、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが豊かに生きていける平和な未来をめざし、保育・子育てに関わる実践・運動を、様々な人たちと手をつなぎ、あきらめずに継続していきたいものです。

コロナ禍は保育・子育てに関わる様々な日本社会の抱える課題、制度の脆弱さを浮かび上がらせました。安心・安全な保育を保障するための「配置基準・面積基準」、「職員処遇」「適正規模」など、「子どもにとって」の視点に立った公的保育制度の改善・拡充が緊急の課題となっています。私たちがかねてから求めてきた声を社会に広く、強く、粘り強く発信していくことが求められます。

福岡集会でのつながり合い、学び合いを活かし、九州合研の輪を広げ、豊かな保育・子育てのための実践と運動の歩みをこれからもリレーランナーの如く進めていきましょう。来年の鹿児島での集会に向け、新たなチャレンジを始め、多くの実践・運動の成果を鹿児島に持ち寄り、ともに学び合い、語り合える集会を開催できることを願って集会アピールとします。

2022 年 9 月 4 日

第 50 回九州保育団体合同研究集会 福岡集会